※令和４年度以降入学生用

学校番号	１０３

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「改訂版　高等学校　数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等	改訂版　教科書傍用　3TRIAL　数学 I+A（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。
「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする数学的活動を行います。
・ 問題集用のノートを用意してください。
問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考えも書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・ 家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析について理解させ，基本的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
（１）　数学的な基本的な概念や原理・原則を体系的に理解する。（知識及び技能）
（２）　さまざまな問題に対して論理的に考察し、表現できる。（思考力、判断力、表現力等）
（３）　数学的根拠に基づいて判断できる。また、問題解決の過程を振り返り、自分で考察し評価・改善ができる。（学びに向かう力、人間性等）

※令和４年度以降入学生用

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	・命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 ・関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察することができる。 ・社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数と式	第1節　式の計算 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法 3. 因数分解	a:乗法公式, 因数分解の公式について理解を深めている。 b:問題を解決する際に, すでに学習した計算方法と関連づけて, 式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること府ができる。	定期考査	定期考査	提出ノート
		第2節　実数 4. 実数 5. 根号を含む式の計算	a:数を実数まで拡張する意義を理解し, 簡単な無理数の四則計算をすることができる。 b:問題を解決する際に, すでに学習した計算方法と関連づけて, 式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすること府ができる。			
		第3節　1次不等式 6. 不等式の性質 7. 1次不等式 8. 絶対値を含む方程式・不等式	a:不等式の解の意味や不等式の性質について理解し, 1次不等式の解を求めることができる。 b:不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 c:数と式で学んだことのよさを認識し活用したり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。			
	第2章　集合と命題	1. 集合 2. 命題と条件 3. 命題と証明	a:集合と命題に関する基本的概念を理解している。 b:集合の考えを用いて論理的に考察し, 簡単な命題を証明することができる。 c:集合と命題で学んだことのよさを認識し活用したり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。	定期考査	定期考査	提出ノート

※令和４年度以降入学生用

２学期	第3章　２次関数	第1節　2次関数とグラフ 1. 関数とグラフ 2. 2次関数とグラフ 第2節　2次関数の値の変化 3. 2次関数の最大･最小 4. 2次関数の決定 第3節　2次方程式･2次不等式 5. 2次方程式 6．2次関数のグラフとx軸の位置関係 7. 2次不等式	a:2 次関数の値の変化やグラフの特徴について理解しようとしている。また，2 次関数の最大値と最小値を求めることができる。 b:2 つの数量の関係に着目し，日常の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 a：2 次方程式の解と 2 次関数のグラフとの関係について理解している。また，２次不等式の解と２次関数のグラフとの関係について理解し，２次関数のグラフを用いて２次不等式を解くことができる。 b:2 つの数量の関係に着目し，日常の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 c：２次関数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	定期考査	定期考査	提出ノート
	第４章　図形と計量	第1節　三角比 1. 三角比 2. 三角比の相互関係 3. 三角比の拡張	a:鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。また，三角比を鈍角まで拡張する意義と，鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 b:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに，三角比の性質や相互関係を考察することができる。	定期考査	定期考査	提出ノート

※令和４年度以降入学生用

3学期		第2節　三角形の応用 4. 正弦定理 5. 余弦定理 6. 正弦定理と余弦定理の応用 7. 三角形の面積 8. 空間図形への応用	a:正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し，三角形の辺の長さや書くの大きさなどを求めることができる。 b:図形の構成要素間の関係に着目し，日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え，問題を解決したり，解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 c: 図形と計量で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	定期考査	定期考査	提出ノート
	第5章　データの分析	1. データの整理 2. データの代表値 3. データの散らばりと四分位数 4. 分散と標準偏差 5. 2つの変量の間の関係 6. 仮説検定の考え方	a:分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。また，具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 b:データの散らばり具合や傾向を数値化する方法について考察することができる。また，不確実な事象の起こりやすさに着目し，主張の妥当性について，実験などを通じて判断したり，批判的に考察したりすることができる。 c: データの分析で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。	定期考査	定期考査	提出ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度